

第 30 回定期総会あいさつ

2026年7月15日

会長 野田 那智子

第 30 回定期総会にご参加の皆さま、常日頃から日本退職者連合の活動に積極的に取り組み、活動されていますことに感謝を申し上げます。

本日はご多忙の中ご参加くださいました連合の神保事務局長には後程ご挨拶いただきます。また、本来ですと各政党の皆さまにご挨拶いただくのですが、国会の会期末ということでメッセージをいただいております。

節目の第 30 回定期総会に際して挨拶を申し上げます。

私たちは世界中の平和を願って運動を進めてきましたが、ウクライナ、ガザ、イラン、での戦闘、そして毎日のようにトランプ大統領の SNS が報道されておりますが、マスコミは報道するだけで解説はなく、日本の思いは何も伝わってこないことが非常に残念です。単なる情報の垂れ流しは止める時だと思っております。

私たちの生活は、この 1 年間で約 2 万品目が値上がりしているという状態にもかかわらず、今の政権は数の力で押し切ろうとしております。

戦争も、地上戦からドローン、SNS、AI と変わってきました。

日本の選挙戦術も変わってきました。これだけで選んでいいのかなと思います。マスコミの成果かもしれませんが、高市総理の支持率が高いことを不思議に思います。

政府は「防衛費増大」「非核三原則見直し」「憲法改正」など過度な現状変更を進めています。私たちは、「核兵器を持たず・作らず・持ち込ませず」との「非核三原則」を堅持してきました。あえて、「軍隊を持たず・軍事国家を作らず・教育勅語を持ち込ませず」と願います。

先日の幹事会でも話しましたが、沖縄県辺野古沖での転覆事故に関して、文科省が教育基本法第 14 条 2 項違反と認定した問題は、「森友・加計学園問題」から違反しているわけですが報道では取り上げられませんでした。問題の本質がどこにあるのか、今の政府・今の与党の説明には無理があるのではないのでしょうか。

2022 年に辺野古に行った時、埋め立てに沖縄戦での遺骨が含まれている可能性がある土砂を使用していたことを知りましたが、マスコミによる報道はまったくありませんでした。都合の悪いことは報道されていないのです

81 年前、日・米が戦った沖縄は国内最大の戦場でした。双方で約 20 万人が犠牲になりました。沖縄戦の特徴は住民が「根こそぎ動員」させられたことです。県民の 4 人に 1 人が亡くなったとされています。この悲劇を繰り返さぬよう平和運動を続けていきます。

「憲法改正」についても、憲法を改正するのではなく、憲法を守る社会をつくること、これが国会議員の仕事です。憲法 24 条を実行していれば、「ジェンダー平等推進」と私たちが声高に叫ばなくてもよいのです。

自民党の元幹部が『憲法 9 条は世界遺産』と言い、本まで出版されています。そういう中で、高市総理の支持率が下がらないのはなぜなのでしょう。

さらに、定数削減は、今国会では見送りになりましたが、選挙制度は民主主義の根幹です。このような状況にもかかわらず、支持率が下がらないことを不思議に思います。

物価や社会保障の分野で私たちの負担増が相次いでいます。次の世代が住みやすい社会を、持続可能な社会保障を、と考えています。しかし、日経新聞の世論調査では、高齢者の窓口負担増に「賛成」52%、「反対」42%で、若い世代ほど「賛成」の割合が高くなっています。衆議院選挙の時に各政党が競って消費税減税を訴えましたが、社会保障に「不安を感じる」が 57%で、財源先送りなどの活字が踊っています。私たちは世代間対立だけは避けたいと考えています。

退職者連合は会員数の減少が課題となっています。今回の組織実態調査では3年間で約6万人が減少になっています。役員の皆さんは、口は達者ですから、組織拡大に力を入れてください。また、どこに行っても女性がいないと言われますが、女性の高齢者の方が多いのですから増やせると思います。

産別・地方退連での組織拡大をお願いするとともに、退連では「政策・制度要求」を策定し、関係府省・組織内議員への要請を行っています。地方退連は2025年度も地域の課題を取り上げ、各知事などに要請しています。

「人生は後半が面白い」と言います。この退連の運動は社会にモノが言える、本当に政府に直接ものを言える組織なわけですから、大きなところから皆さんの組織活動をお届けしたいと思います。

退職して残りの人生、社会に参加・参画する、政治にものを言う、組織として挑戦できる、こんな楽しい生き方はないと思います。

退職者連合設立 40 年に向けて、次の世代が生きやすいように、平和な社会になるように、この運動は「ちいさなことから始める勇氣、大河にする根気」であることを申し上げ、総会にあたっての挨拶とします。